

<事業名> 講談・落語でりくを語り継ぐ

| | |
|------|----------------|
| 団体名 | 大石りくを語り継ぐ実行委員会 |
| 所在地 | 豊岡市 |
| 代表者名 | 中嶋 洋二郎 |

| | | | | |
|-------|---|---|--------------|-------------------|
| 事業内容 | 日時 | ①令和4年12月10日(土) 13:30～ ②令和4年12月14日(水) 10:00～ | | |
| | 場所 | ①豊岡コミュニティセンター(豊岡市立野町1-4) ②赤穂市加里屋大石神社付近(忠臣蔵交流物産市会場) | | |
| 内容 | ①落語、講談による忠臣蔵、大石りくを伝える催し ②赤穂義士祭における大石りく、豊岡のPR | | | |
| 地域 | 豊岡市 | | | |
| 事業の効果 | <p>(1) 団体(組織)内の効果 【審査員のご指摘…新しい参加者を集める工夫】 指摘を受ける中で初めて大阪からのバスツアーや、Yahoo!パスマーケットの活用を行った。 挙手の結果、2/3が新たな客層であった。バスツアーは、昼食時に玄武洞観光、催物の終了後はコウノトリ郷公園への見学などを実施。組織としての新たな取り組み効果があった。</p> <p>(2) 地域への波及 りく生誕353年、吉良邸討ち入りから320年の歳月が流れる中で、豊岡歴史博物館では大石理玖と豊岡の企画展示や講演会、他団体においても図書館や出石永楽館、日高でも忠臣蔵を題材とした講談が開催されるなど、大石りくを語り継いできたことで地域への波及効果は見られた。 また、赤穂に義士祭が3年ぶりに開催され、大石りくのPRで行ったが、改めて関心が高いことが認識できた。豊岡でも義士祭が開催された。</p> | | | |
| 事業経過 | 月日 | 実施内容 | 場所 | 参加人数 |
| | 7月11日 | 補助金交付決定通知 | | — |
| | 7～8月 | 出演者等の調整 | メール等による連絡調整 | — |
| | 9月8日 | 企画会議(実施内容の確定) | 市民プラザ | 8人 |
| | 10月23日 | 実施にかかる・詳細調整会議 | カバンストリート | 10人 |
| | 12月1日 | 実施にかかる調整会議 | 市民プラザ | 10人 |
| | 12月10日 | 忠臣蔵落語と新作講談大石りく Vol 3 開催 | 豊岡コミュニティセンター | 来場 75人 |
| | 12月14日 | 赤穂義士祭における大石りく、豊岡のPR活動 | 赤穂市加里屋大石神社付近 | 来所 70人 (出役 2人) |
| 1月24日 | 反省会と今後に向けた会議 | 芸術文化専門職大学 | 15人 | |

| | |
|--------|--|
| 協働の相手 | <p>大石りく奉賛会の支援や、豊岡観光協会の事務局としての参画、豊岡市歴史博物館での企画展示や講演会、カバンストリートでの啓発などにより、コロナ禍で地域の活力が沈滞する中、豊岡の歴史、文化、観光に大きな影響を与えてきた大石内蔵助の妻りくを語り継ぐ原動力と事業効果につながった。</p> |
| 今後の課題等 | <p>(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等</p> <p>大石りくの遺徳と顕彰にこだわり、活動を継続したい。活動の継続には経費が必要であり、今後も入場料あるいは参加料を徴収するなど努力・工夫していきたい。</p> <p>(2) 地域活動を拡大していくための工夫等</p> <p>コロナ禍で出演者が直前になり陽性反応となり、代演を充てることとなった。当団体への期待値が高いことは感じるが、コロナ禍の収束が見えない状況下で、当面は無理することなく「大石りくを語り継ぐ」という団体としての取組み姿勢を継続的に実践していくことで、地域活動に活力と元気を与え、拡大していくものと考えており、語り継ぐ内容の充実と感染対策の工夫を図りながら、地に足を付けて地道に活動を進めていきたい。</p> |



4年12月10日 講談・落語の様子



4年12月10日 講談・落語の様子



4年12月10日 講談・落語の様子



4年12月14日 赤穂PR